

## ウイルス性肝炎 Q&A

### Q検査を受けるには？

【どんな検査？】

A 肝炎ウイルスに感染しているかどうかは、**血液検査**で判断します。採血は短時間で済み、また、検査結果は数週間でお知らせできます。※感染後は3か月ほどたたないと、陽性にならないこともあります。

【どこで受けられるの？】

A 検査を受診する機会としては、以下のよう  
なものがあります。

- ・大山町の集団・個別検診
  - ・米子保健所での肝炎ウイルス検査
- ※実施日程や費用などは、それぞれの**実施主体**によって異なりますので、別途お問い合わせください。

### Q感染が分かったら？

A 肝炎ウイルスに感染していたとしても、肝臓の状態は人によってまちまちです。まずは、専門医に相談してみましょう。

＜主な治療方法について＞

- インターフェロンは、免疫系・炎症の調節などに作用して効果を発揮する薬剤で、ウイルス性肝炎を根治することができるものです。
  - B型肝炎の場合は約3割、C型肝炎の場合は約5～9割の人が治療効果を期待できます。
  - 核酸アナログ製剤は、B型肝炎ウイルスのDNA合成を阻害する作用がある薬剤で、ウイルスの増殖抑制の効果があります。
- ※治療効果は、遺伝子型、ウイルス量などによって異なります。

### Q医療費助成制度とは？

A 国と都道府県では、肝炎の有力な治療法であるインターフェロン治療や核酸アナログ製剤治療に係る医療費について、あなたの負担額を軽減する助成を行っています。助成の対象となるのは

**B型またはC型肝炎のインターフェロン治療およびB型肝炎の核酸アナログ製剤治療**です。

あなたの世帯の所得に応じて、月当たりの医療費を軽減します。

詳しくは、米子保健所（☎0859-31-9317）にお問い合わせください。

（参照資料）肝炎の検査についてのパンフレット」（厚生労働省作成）

### Q B型・C型肝炎に感染したら日常生活はどうなりますか？

A **症状がなければ、日常生活に支障はありません**

症状がなければ入院などの必要はありません。初めは2～3か月に1回程度、定期的に肝臓の検査を受けて肝臓の状態を正しく知り、肝臓をいたわる生活を心がけましょう。

（症状を悪化させないために）

- \* かかりつけ医と健康管理や治療方針についてよく相談し、処方された薬を勝手に止めたり、かかりつけ医に無断で薬を服用したりしない。
- \* 過労を避け、規則正しい生活を心がける。
- \* 飲酒はできるだけ控える。
- \* 標準体重の維持に努める。

### Q B型・C型肝炎の感染を拡げないためにはどうすればいいですか？

A **自分の血液が他人にふれないように注意しましょう**

B型肝炎、C型肝炎は血液を介して感染するので、日常生活で感染することはほとんどありません。歯ブラシ、カミソリなど血液が付着するようなものを他人と共用しない、血液や分泌物が付着したものは自分でしっかりくんで捨てる、などを心がけましょう。献血はできません。

（このようなことでは感染しない）

- \* くしゃみ、せき \* 握手 \* 抱擁
- \* 入浴 \* 食器やコップの共有
- \* 隣に座るなど日常的な接触

（参照資料）鳥取県が配布している「肝炎検査受診しましたか？ウイルス性肝炎安心ガイド」

平成25年度の健康診査  
肝炎ウイルス検査  
各種がん検診を  
ぜひ受けましょう!!



### ◆肝炎に関する相談窓口

西部総合事務所福祉保健局（米子保健所）  
年末年始を除く 平日8時30分～17時15分  
☎0859-31-9317

### ◆問い合わせ先

保健課 ☎0859-54-5206